

まちにとっての大きな家

アーケードを利用して家族単位を拡大する

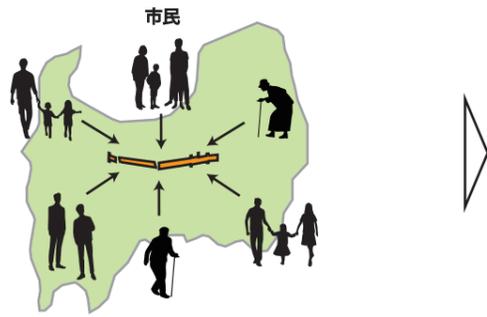
鍋平和輝

■問題 「一住宅＝一家族」の浸透によって、地域コミュニティが失われ、地域社会の中で学ぶ人間関係や、子どもたちと遊ぶ中で培われる社会性が学ばれることなく発達しにくくなっている。また、育児も介護もすべて住宅の内側で家族が解決しなければいけなくなっている。

■提案 家族単位を拡大した持続可能なまち

このアーケード商店街は、富山県内のさまざまな地域の人々が、ショッピングを目的として非日常的に訪れる場所である。

大屋根の持つ懐の広さを活用して、地域社会単位の人々に日常的に使われ、地域コミュニティの核となるような居場所にする。

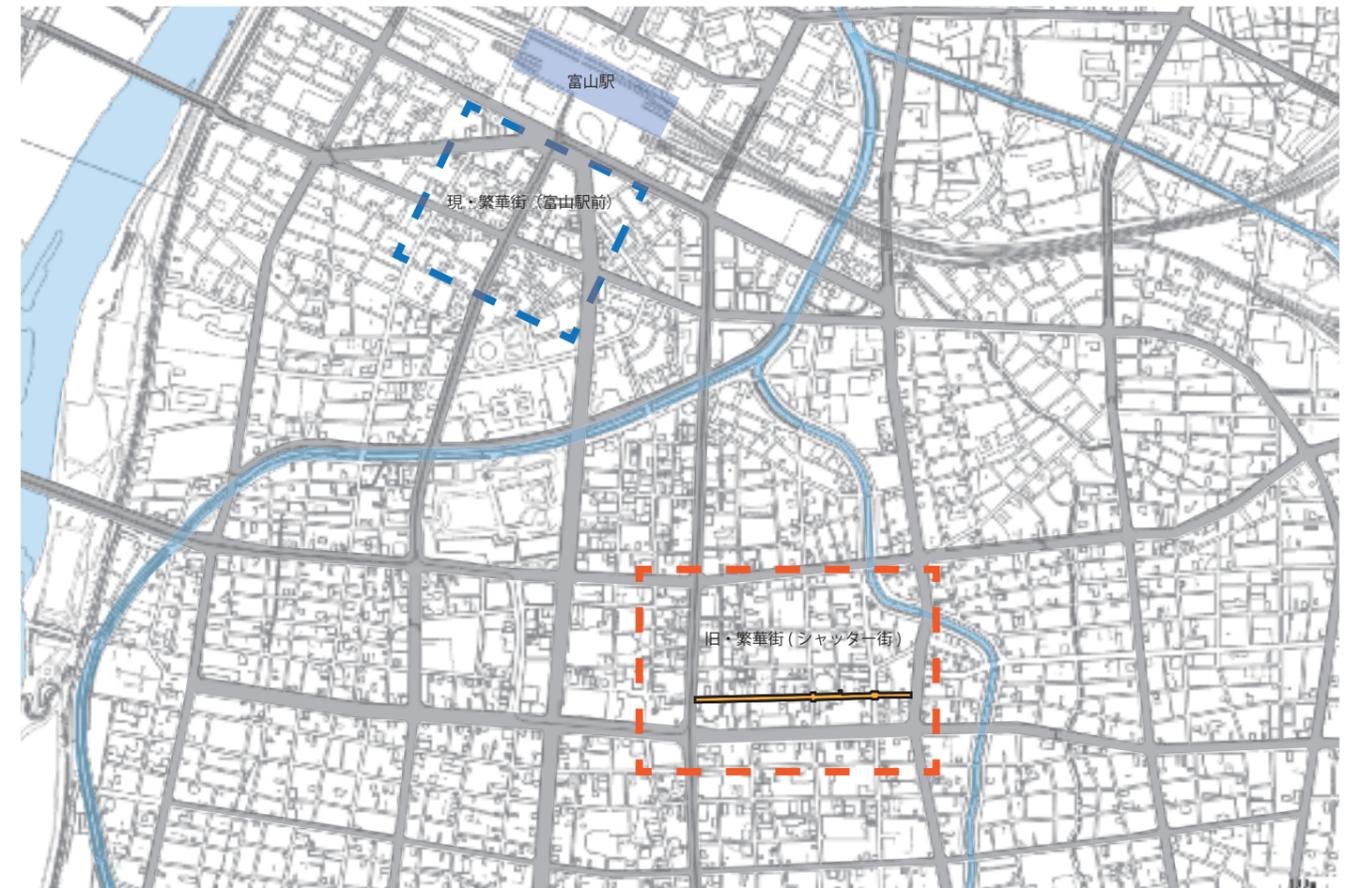
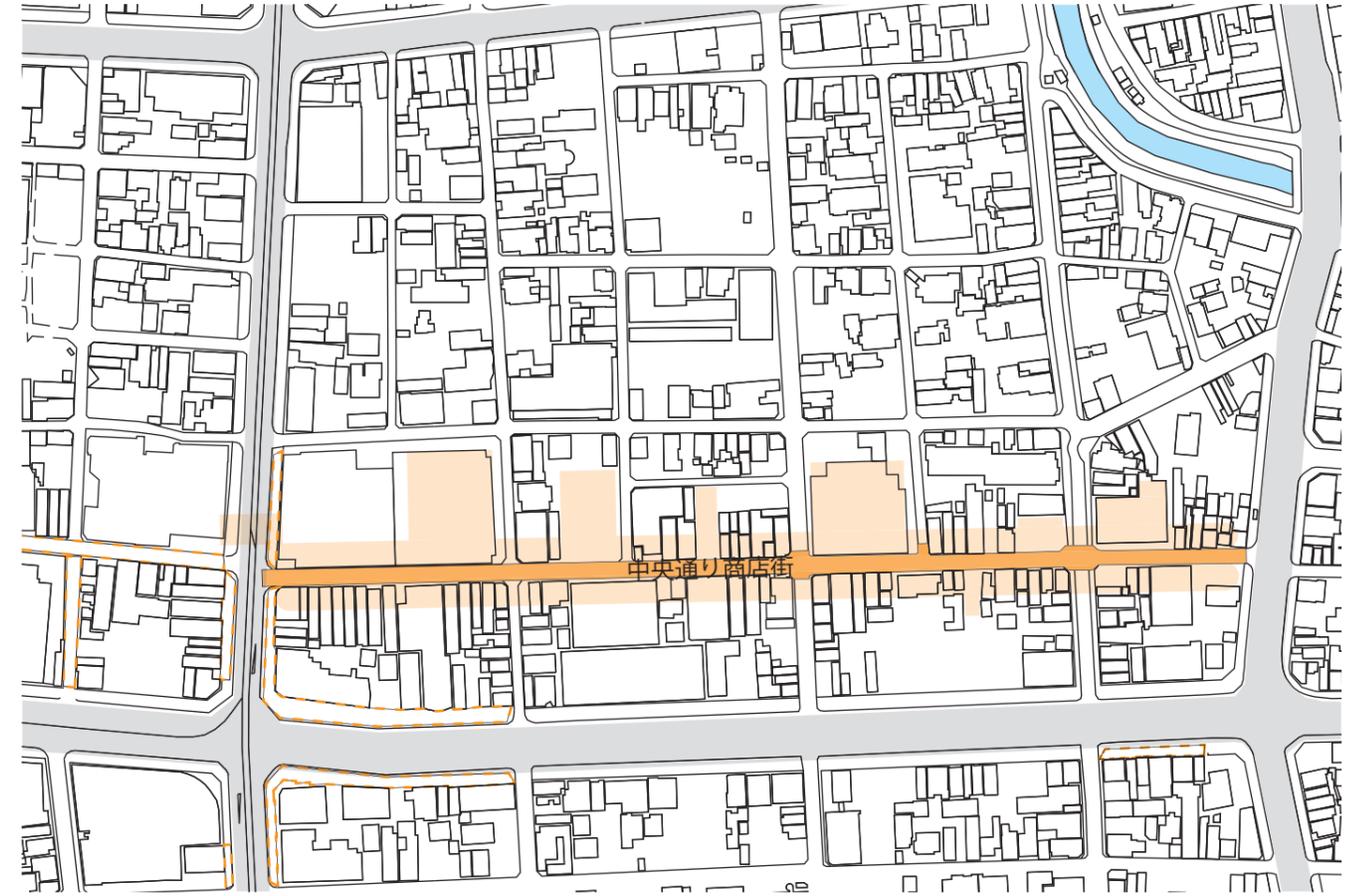


このアーケードを活かし、地域の人々が集まることのできる居場所をつくることで、地域コミュニティを形成され、地域住民たち、人と人がつながり始めて、経済に頼らない持続可能なまちにすることを旨とする。



(アーケードやグランドプラザでのイベント時の様子。大屋根の懐の広さが、人々の活動を受け入れている。)

■敷地 富山県 富山市 中央通り商店街



■敷地 3つの特徴

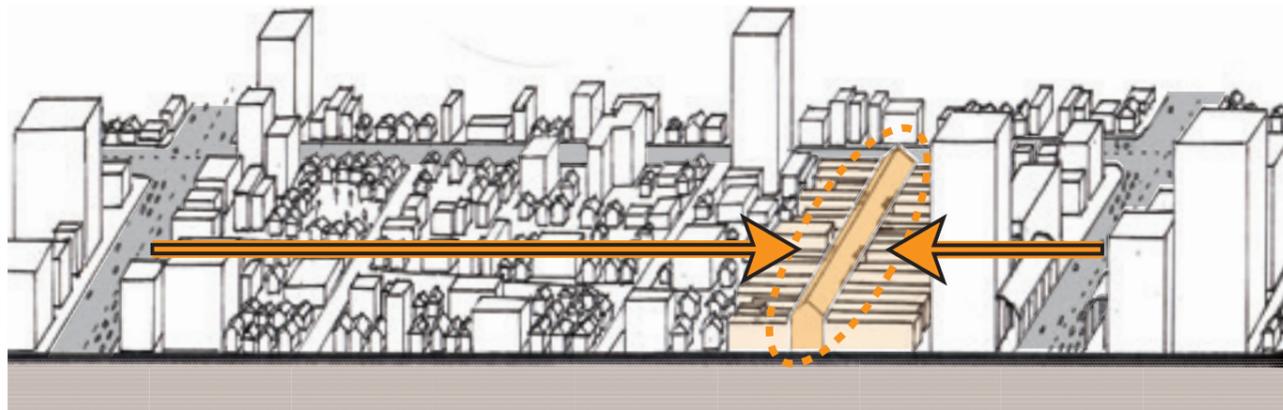
■特徴1：大きく包み込む大屋根

長さ約 470m ものアーケード商店街。アーケードが連続した大きな空間が広がっており、人々の様々な活動を許容する懐の広さをもっている。



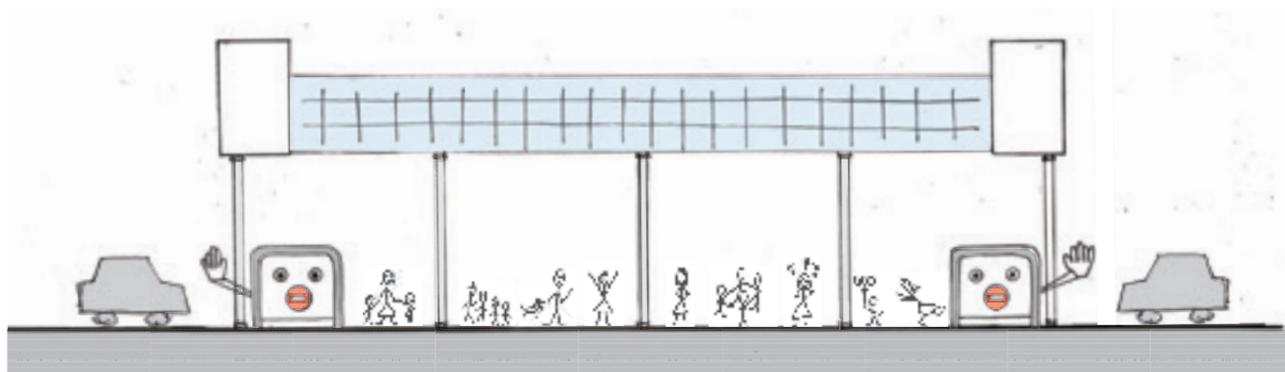
■特徴2：都市の裏側にひそむ

幹線道路から一本入った静かな場所にある。都市的視点では、この大空間は都市の裏側にあると言える。



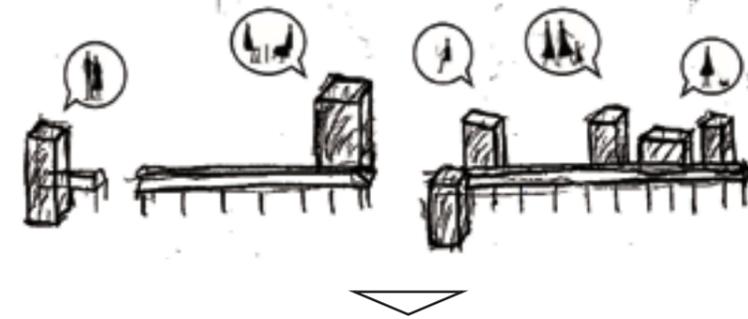
■特徴3：歩行者天国・人間のための場所

このアーケード商店街は、11時～22時まで歩行者天国（車両通行止め）となっている。人間のための場所としての性質をもつ。

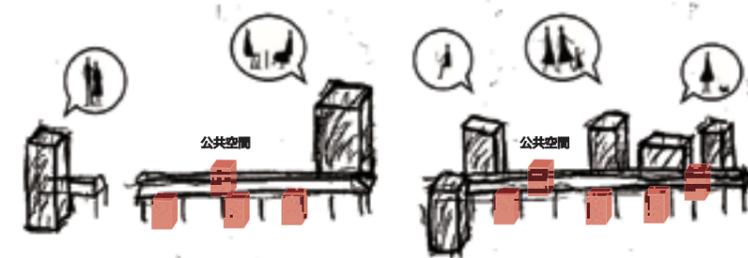


■計画1：再開発により生じた「一住宅＝一家族」住宅の密集を活用する

再開発によって大型マンションが建ち始めたアーケード街において、「一住宅＝一家族」住宅が多く集まるようになった。

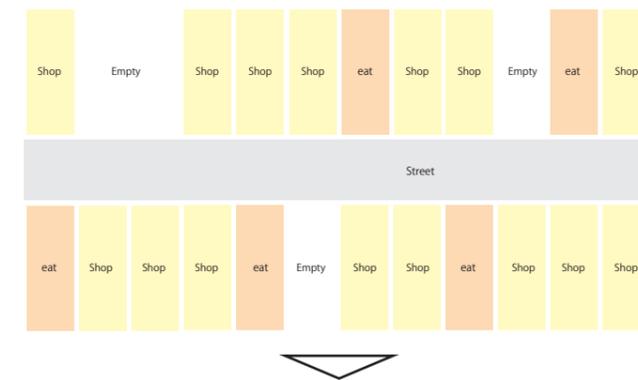


アーケードによる連続屋根が物理的に大型マンション同士をつなげる状況において、地域住民が交流することのできる、まちにひらいた公共空間をアーケード沿い・内部に挿入し連続させることが、人と人をつなげ始める要因になると考える。



■計画2：人びとの交流を生むプログラムを入れ込む

現状のプログラムは、小売店をメインとし飲食店やその他店舗が存在している。服や雑貨などのショッピングのための場となり、日常に根付いた行為が見られる場所ではない。



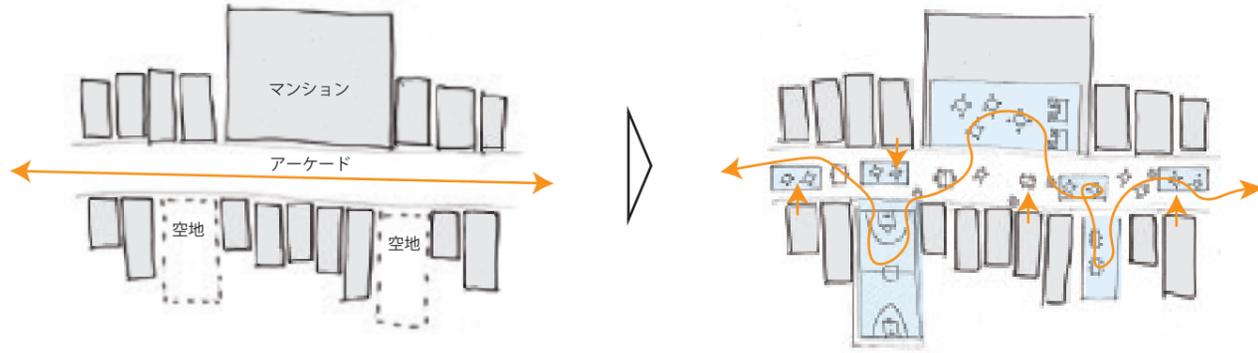
まちに開いたキッチンや食堂、運動広場、学習スペース、小劇場などを設け、地域住民の交流拠点を点在させる。アーケード内部には、フリースペースを設け、居場所化する。



■設計1：アーケードを居場所化する

現在のアーケードは、移動空間のみとして使われ、滞留の要素がない。

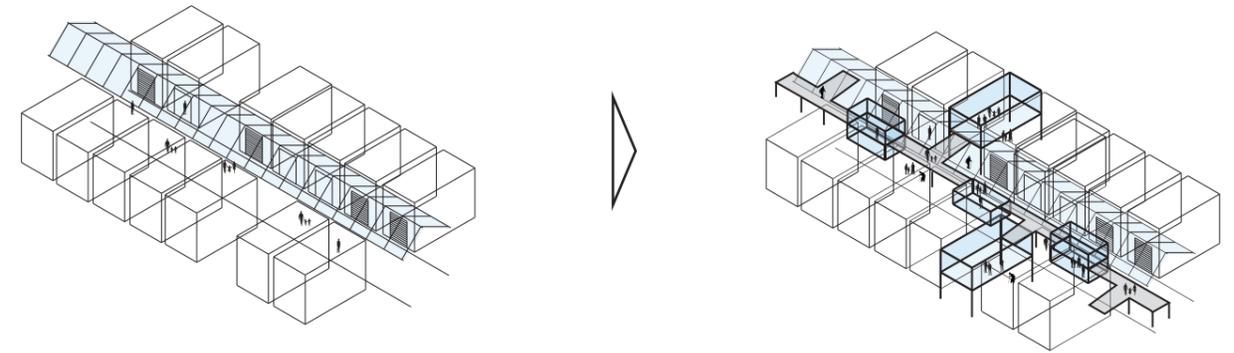
アーケード内部にガラスのボリュームを設け、居場所化する。また、アーケード沿いの空地やマンション1,2階部分を活用し、アーケードと接続させた一体的な場所をつくる。



■設計2：ボリューム同士を繋ぎ一体化する回廊

道として使われているアーケード。店舗に入る人は少なく、ほぼ移動空間のみとして使われており、滞留の要素がない。

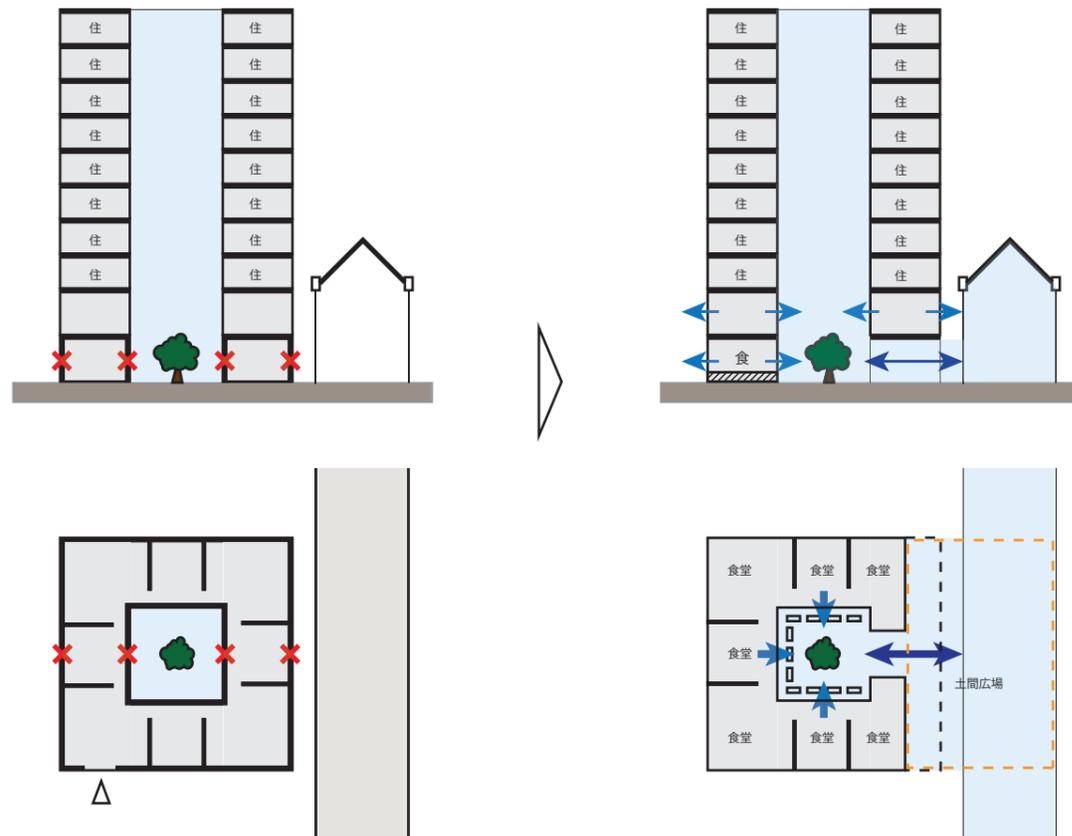
アーケード内部のボリューム同士をつなぐように回廊を設ける。そうすることで、上階での連続的な体験ができるようになり、上下の関係性も生まれるため、様々なアクティビティが生じると考える。



■設計3：マンション中庭の活用、アーケードとの接続

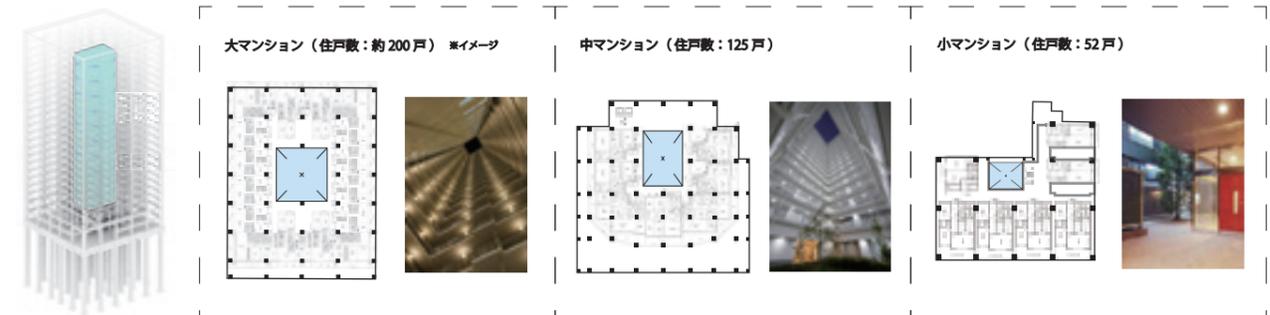
アーケードにマンション中庭を寄与できるよう、アーケードと中庭を一体になるように繋ぐ。そうすることで、マンション内に閉じたコミュニティではなく、アーケードを利用して活動が溢れていくようにする。マンションに住んでいない人も一緒に巻き込めるような地域コミュニティの場を考える。

3つの共通ルール ①中庭を取り囲む炊事場・食堂の設置 ②中庭とアーケードの接続 ③アーケードを含めた土間広場の設置



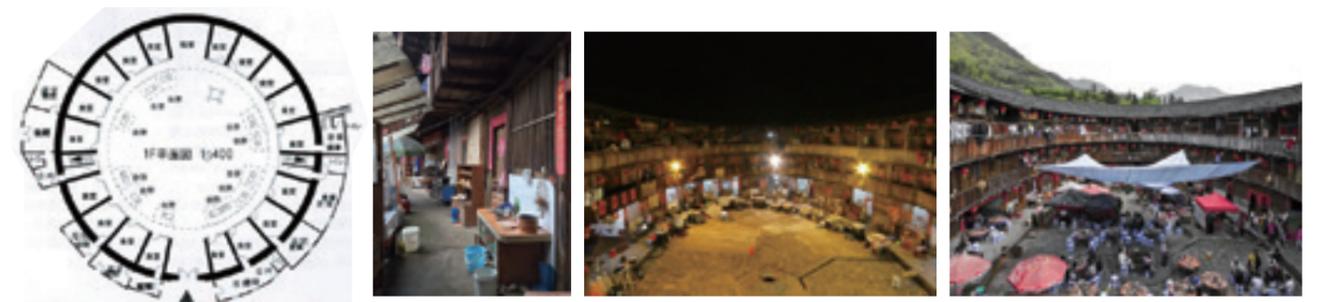
【リサーチ①】「ヴォイド型マンション」に設けられる吹き抜け・中庭

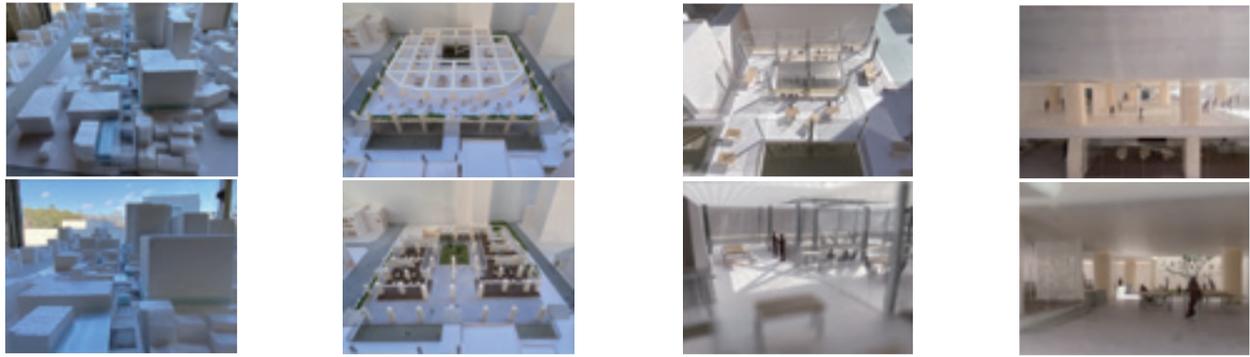
アーケード沿いに建つ3棟のマンションはいずれもヴォイド型であることから、吹き抜けと中庭をもつ。しかし、いずれも中庭に対して閉じた作りとなっており、うまく活用されていない。



【リサーチ②】「福建土楼」の中庭を中心として炊事場と食堂が取り囲む形式

福建土楼は、中庭を中心として炊事場と食堂が取り囲む形式をもっており、その形式によって各住戸による家族単位を超え、中庭を取り囲む全ての住戸・住民による共同体が形成されている。ヴォイド型マンションも類似的な形式をもつことから、それぞれのマンションにこの形式を取り込むように設計する。





《感謝のメッセージ》

ころさんへ
 高校生の時に言ってくれた「建築をやるなら横国いいと思うよ。」先輩のその一言がなければ僕は横国に来ていません。
 横国で建築設計をできて本当に良かったなと感じます。ありがとうございます！
 そして、今後の先輩の活躍に期待です！応援してます！

りょうまへ
 りょうまがいなければ、ここまでやり切ることはできなかったやろう。
 すごい無理言っても、何も文句も言わず手伝ってくれたりりょうまには感謝しきれても感謝しきれない！
 そしてアドバイスくれたのもすごい助かった！また飯行こう、りょうまからもいつでも誘ってくれ！

同級生の友へ
 卒制期間、友達同士で電話をつないでやれたのは、すごい気持ちになる最高のおくすりでした。
 そして楽しく卒制ができた一つの要因でした。4年間、本当にありがとう！



Comments from Classmates

鍋の決断力に起因する作業量や思い切りの良さは毎回羨ましく思う。最終での模型や図面の密度なんかも正直圧倒された。一方でプレゼンテーションなどを聴いていると機械的に思考が進んでいるなど感じる節が多々あり、もっと苦しみながら悩んで捻り出したような鍋の熱意を込めて欲しかった。とは言え、アーケードを再編することでこの場所が地域の活動拠点として使いこなされ、あったかい居場所になっていくという鍋らしくて魅力的な提案だったと思う。

上田成夢